

令和 6 年度

M C L 盛岡外語観光&ブライダル専門学校

自己点検・評価委員会結果報告書

令和 7 年 3 月

令和6年度自己点検・評価結果報告について

ここに学校法人龍澤学館 MCL 盛岡外語観光&ブライダル専門学校の自己点検・評価結果を公表致します。

令和7年3月

学校法人龍澤学館
理事長 龍澤 尚孝

MCL盛岡外語観光&ブライダル専門学校 令和6年度 自己点検表

1. 学校の教育目標
- 「社会で活躍できるホスピタリティ精神あふれる人材の育成」を教育理念とし、社会に有意な人材を輩出し業界への貢献を果たすとともに地域活性化に寄与する。
2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画
- 経済活動におけるコロナ禍の影響が払拭されつつある今、経済活動は正常化向かい、サービス業界は勢いを取り戻している。一方で、その構造も変化しておりサービス系に就く本校の各学科における人材育成は、その果たす役割も高まっている。この社会的要請に応えるために、学生に対し専門的知識や技術はもとより、社会人として保持すべき基礎学力やマナー、グローバル社会での活躍を目指すよう語学力習得など、時代にフィットした学びを促す。
3. 評価項目の達成及び取り組み状況

※適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1

(1) 教育理念・目標

	評価項目	自己点検・評価結果※
1	学校の理念・目的・人材育成像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	4
2	学校における職業教育の特色は何か	4
3	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
4	学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	4
5	各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4
課題	教育理念・育成人材像等の意識づけについて、AP、CP、DP、ロードマップの提示を行いながら、入学後の定期的周知の実施をすることができた。	
改善策	社会、業界のニーズの変化に合わせ、ロードマップも更新しながら、引き続き学校理念等を広く提示していきたい。	

(2) 学校運営

	評価項目	自己点検・評価結果※
1	目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
2	運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4
3	運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
4	人事、給与に関する規定等は整備されているか	4
5	教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
6	業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
7	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4
8	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4
課題	今年度は新校舎での運営がスタートし、組織としても新たな形も取り入れられ、意思決定においてもスムーズになった。	
改善策	引き続き規則等の見直しを図りながら、あらゆる状況に臨機応変に対応できるように検討していく。	

(3) 教育活動

	評価項目	自己点検・ 評価結果※
1	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
2	教育理念、育成人材像や業界ニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
4	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
5	関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
6	関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
7	授業評価の実施・評価体制はあるか	4
8	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
9	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4
10	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
11	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	3
12	関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	3
13	関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
14	職員の能力開発のための研修等が行われているか	4
課 題	教育活動においては、従来通り積極的に取組むことができた。一方で、教職員研修、指導力向上については、まだ検討の余地がある。	
改善策	今年度からは新校舎での活動となり、引き続き外部との連携を多くすることで教育の質の向上を図った。引き続き取り組むとともに、外部委員の方々の助言もいただきながら検討を進める。	

(4) 学修成果

	評価項目	自己点検・ 評価結果※
1	就職率の向上が図られているか	4
2	資格取得率の向上が図られているか	4
3	退学率の低減が図られているか	4
4	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
5	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3
課 題	卒業生の社会的活躍についての就業状況調査活動は、新たな実施方法を模索しているところであり、把握ができていない状況である。	
改善策	引き続き卒業後の就業状況調査活動の取り組みについて検討していくこととする。	

(5) 学生支援

	評価項目	自己点検・ 評価結果※
1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
2	学生相談に関する体制は整備されているか	4
3	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4
4	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3
5	課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
6	学生の生活環境への支援は行われているか	4
7	保護者と適切に連携しているか	4
8	卒業生への支援体制はあるか	3
9	社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
10	高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4
課 題	学校としての学生対応は年に1度の健康診断の実施に加え、MCLの学生が受けられるスクールカウンセラーによる相談室の周知も行っている。	
改善策	学校保健安全計画を定める他、担当教職員の配置や学生組織（保健委員会等）の設定、卒業生への体制整備を検討をしていく。	

(6) 教育環境

	評価項目	自己点検・ 評価結果※
1	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
2	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
3	防災に対する体制は整備されているか	3
課 題	防災に対する体制として、避難訓練を実施したが、教職員防災体制に未だ検討の余地があり、対策が必要である。	
改善策	引き続き関係各所と連携を取りながら、定期的な防災・避難訓練に実施を進めていくことを検討する。	

(7) 学生の受入れ募集

	評価項目	自己点検・ 評価結果※
1	学生募集活動は、適正に行われているか	4
2	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
3	学納金は妥当なものとなっているか	4
課 題	社会情勢に合わせて、学納金の内訳等について検討と変更を行っている。	
改善策	学納金については、定期的に検証と検討を行い、法人本部と連携を図っていくこととする。	

(8) 財務

	評価項目	自己点検・ 評価結果※
1	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
3	財務について会計監査が適正に行われているか	4
4	財務情報公開の体制整備はできているか	4
課 題	法人本部で財務について適正に管理しており、財務情報についてはホームページで公開している。	
改善策	法人本部と今後も連携を図っていくこととする。	

(9) 法令等の遵守

	評価項目	自己点検・ 評価結果※
1	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
3	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4
4	自己評価結果を公開しているか	4
課 題	教育現場における学生に対するコンプライアンス方針（各種ハラスメント等）はガイドラインを定めている。また、学生や保護者から個人情報に関する承諾書を交わし、個人情報の取扱いに注意を払っている。	
改善策	引き続きコンプライアンス遵守の重要性を認知しながら、外部研修や勉強会を通して、社会的課題やコンプライアンス等について理解を増やしていくこととする。	

(10) 社会貢献・地域貢献

	評価項目	自己点検・ 評価結果※
1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
2	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
3	地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4
課 題	昨年度に引き続き授業において地域と連携する機会を増やし、近隣市町村や企業と連携した商品化に取り組み、高い評価をいただくことができた。	
改善策	今後も社会や地域のニーズに応えられる社会貢献・地域貢献活動に協力していくこととする。	

(11) 国際交流

	評価項目	自己点検・ 評価結果※
1	留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか	4
2	留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	4
3	留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	4
4	学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	3
課 題	在籍管理や学習・生活指導等について専任の職員を中心に、複数名教職員で対応している。	
改善策	引き続き、留学生対応に関する研修へ積極的に参加し、他校の対応事例を参考にしながら、専任の職員を中心に適切な対応にあたっていくこととする。	

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

今年度より校舎を移転し、校名も「MCL盛岡外語観光&ブライダル専門学校」として新たなスタートを切った。本校の専門能力を活かした実践的活動を積極的に行い、地域・社会からも評価を得ることができた。引き続き、時代・社会の変化に伴い、本校の専門能力を育成する教育カリキュラムや支援体制について、検討を重ねながら構築していく必要がある。

継続課題である「要件等を備えた教員確保・マネジメント」「卒業生の状況把握・支援」について、今後も校内や関連組織と検討を重ねながら、課題解決のための対策計画と具体的手法を考案し、本校の存在価値を高められるよう実施を進めていくこととする。

令和 6 年度

MC L 盛岡外語観光&ブライダル専門学校

学校関係者評価委員会結果報告書

令和7年3月

学校法人龍澤学館
理事長 龍澤 尚孝

令和6年度学校関係者評価 報告

学校法人龍澤学館 MC L盛岡外語観光&ブライダル専門学校では、本校規定に基づき、学校関係者評価委員会を実施致しました。以下に、その内容を報告致します。

今後は、各委員からの意見や指導等を真摯に受け止め、より良い教育、より良い学校運営を目指し、教職員一同努力して参ります。

引き続き、一層のご支援、ご協力をよろしくお願い致します。

1. 学校関係者評価委員

氏名	企業・団体名	部署・役職
中村 正樹	盛岡大通商店街協同組合	事務局長
小野 直人	株式会社北日本銀行	人事部長
渡辺 泰孝	岩手県中小企業団体中央会	企画振興部長
新沼 翼	株式会社盛岡シティホテルズ ホテルロイヤル盛岡	
大森 亨	アルファクラブ東北株式会社 ベルヴィ盛岡	
八幡 柊	Z-CRAFT イオンモール盛岡南店	
及川 源太	MC L盛岡外語観光&ブライダル専門学校	校長
工藤 恭人	MC L盛岡外語観光&ブライダル専門学校	校長代理
千葉 綾子	MC L盛岡外語観光&ブライダル専門学校	教務主任

2. 委員会次第

- (1) 開会
- (2) 校長挨拶
- (3) 委員のご紹介
- (4) 令和6年度自己点検委員会評価結果について
- (5) 意見交換
- (6) その他

3. 議論内容

本校の教育理念・目標と令和6年度に定めた重点目標と計画について説明を行った後、「専修学校における学校評価ガイドライン」を踏まえて作成した評価項目による自己点検・評価の結果に基づき、評価項目ごとに達成状況や取組み状況、改善策について順次、外部委員の皆様と議論を行った。

① 教育理念・目標

学校の教育理念・目的・人材育成像については、学校としてAP（アドミッションポリシー）、DP（ディプロマポリシー）、CP（カリキュラムポリシー）の提示に加え、ロードマップの作成、入学後の定期的周知の実施をしている旨を説明し、外部委員からご理解いただいた。

② 学校運営

今年度より新校舎での運営がスタートし、組織としても新たな形が取り入れられ、意思決定においてもスムーズになった。

引き続き、規則等の見直しを図りながら、あらゆる状況に臨機応変に対応できるよう検討を進めている。

今後も、学校理念に基づいた運営方針のもと、柔軟かつ安定した学校運営を目指し、継続的な改善を図っていくことを説明した。

③ 教育活動

「人材育成目標の達成に向けた教育活動の実施」「業界との連携による教育の充実」「教員の資質向上に向けた取り組み」については、従来通り積極的に取り組むことができた。一方で、教職員研修や指導力向上については、なお検討の余地がある。

今年度からは新校舎での活動となり、外部との連携を多く行うことで教育の質の向上を図った。特に、関連分野における企業や団体との連携を通じて、カリキュラムの見直しや実践的な職業教育の充実を進めた。引き続き、時代に対応した教育の質の向上を図

っていく旨を説明した。

④ 学修成果

「卒業生・在校生の社会的な活躍および評価の把握」「卒業後のキャリア形成への効果の把握」については、引き続き課題が残っている。卒業生の社会的活躍に関する就職状況調査活動は、新たな実施方法を模索している段階であり、十分に把握できていない状況である。

一方で、資格取得率や就職率の向上は図られており、学修成果の一部については成果が見られた。今後は、卒業後のキャリア形成に関する情報収集体制の整備を進め、教育活動の改善に活用できるよう検討を重ねていく。

引き続き、卒業生の進路や社会的評価を把握するための調査活動の取り組みについて検討をしていく旨を説明した。

⑤ 学生支援

「学生の健康管理を担う組織体制」「卒業生への支援体制」については、十分に整備されているとは言えず、個別対応にとどまっており、課題が残った。

引き続き、年1回の健康診断の実施に加え、MCLの学生が受けられるスクールカウンセラーによる相談室の校内周知を進めた。学生支援の充実に向けて、学校保健安全計画の策定、担当教職員の配置、学生組織（保健委員会等）の設置、緊急時の体制整備などについて検討していくことを説明した。

⑥ 教育環境

「施設・設備が教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか」「防災に対する体制整備」については、一定の取り組みが進められているものの、依然として課題が残っている。

引き続き避難訓練を実施したが、教職員の防災体制については未だ検討の余地があり、さらなる対策が必要である。

今後は、関係各所との連携を図りながら、定期的な防災・避難訓練の実施体制についても検討を進めていく旨を説明した。

⑦ 学生の受け入れ募集

社会情勢に合わせて、学納金の内訳等について検討と変更を行っている。定期的に学納金の検証、検討を行い、法人本部と連携を図っていくことを説明した。外部委員からは特に意見は出なかった。

⑧財務

法人本部で財務に関して適正に管理しており、ホームページで財務情報を公開していることを説明した。外部委員からは特に意見は出なかった。

⑨法令等の順守

学生に対するコンプライアンス方針のガイドラインを定めている。また、学生や保護者と個人情報に関する承諾書を交わし、個人情報の取扱いに注意を払ってきた。今後も、コンプライアンス遵守の重要性を認識しながら、外部との連携を図り、教職員の意識向上と体制整備を進めていく旨を説明した。

⑩社会貢献・地域貢献

「学校の教育資源や施設を活用した社会・地域貢献」「学生のボランティア活動の支援」については、昨年度に引き続き積極的に取り組むことができた。

授業において地域との連携機会を増やし、近隣市町村や企業と連携した商品化に取り組み、高い評価をいただくことができた。地域との交流の機会が増加し、学生の主体的な活動も活発化した。

今後も、社会や地域のニーズに応えられる社会・地域貢献活動に協力し、教育活動と地域連携の相乗効果を高めていくことを目指していく旨を説明した。

⑪国際交流

在籍管理や学修・生活指導に関して専任の職員をおき、複数名の教員で対応している。引き続き、留学生対応に関する研修等へ参加し、他校の対応事例を参考にしながら、専任の職員を中心に適切な対応にあたっていくことを説明した。国内外での取組みについては、時期や方法や効果等、今後鋭意検討していくことを説明した。

3. まとめ

令和6年度は、校舎移転に伴い新たなスタートを切った年であり、教育活動や学校運営において多くの変化が見られた。本校の専門能力を活かした実践的活動を積極的に展開し、地域・社会からも高い評価を得ることができた。

一方で、「③ 教育活動」「④ 学修成果」「⑤ 学生支援」「⑥ 教育環境」「⑪ 国際交流」の各項目において、課題として挙げられ、助言をいただいた内容については、検証と具体的対策を講じ、計画的に改善できるよう努めていく。

刻々と変容する社会の中で、本校の各分野において活躍できる人材の育成を目指し、より充実した教育活動と高い学修成果を目指して、教育環境の整備に取り組んでいきたい。